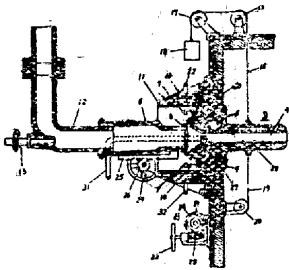


特許抄録

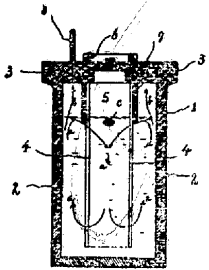
回転管状爐のバーナー (1) 第 4(8 號 [昭 18-2-5] (2) 昭 17-1-29. (3)(4) 橋本初雄 本發明は回転管状爐の排出室の壁に案内部を



設けて之により燃料導管を水平方向に摺動自在に支持せしめ該導管の内端部を二つ割となして撻條力により互に結合せしめ該二つ割端部に依りノズルの基端に形成せる球状部を同動自在に挾持し且ノズル孔の前記導管との接続端は漏斗状に擴大せしめ前記導管の外端に

粉末燃料送給管を接続し前記導管を水平方向に移動せしむる操作機構及前記ノズルを前記球状基端を中心として俯仰回動せしむる操作を爐外に設けた回転爐バーナーに係る。

金屬マグネシウム製造装置 (1) 第 446 號 [昭 18-2-5] (2) 昭 15-7-29. (3)(4) 川崎宗造 本發明は無水



鹽化マグネシウムを電解浴とせる圓形金屬マグネシウム電解槽の内壁全周に沿ひ配列せる黒鉛板を陽極とし中央には上部より端子により連絡せらるる多數の鐵丸棒陰極を一定間隔を以て垂下して筒状空間を形成せしむることを特徴とする金屬マグネシウム製造装置に係る。

金屬化合物より金屬を熱的に製造する方法 (1) 第 452 號 [昭 18-2-5] (2) 昭 14-6-5. (3)(4) 獨逸ベルンハルト、ベルグハウス 本發明は金屬化合物を炭素或は他の還元劑と混合し之を不全真空下の暈光放電により必要なる反應溫度に加熱し以てガスを含まざる質緻密なる金屬融物を得るを特徴とする金屬化合物より金屬を熱的に製造する方法に係る。

電氣爐の電極の構成する資料に依り鐵又は鐵合金を製造する方法

(1) 第 453 號 [昭 18-2-5] (2) 昭 15-12-2. (3)(4) 宮口竹雄 本發明は高周波用電極及低周波用電極を有する電氣爐を設置し高周波用電極は還元劑と酸化鐵又は酸化鐵及鐵合金を構成すべき他の元素の酸化物を以て造られたる公知の電極を用ひ高周波用電極と低周波用電極とを等距離に装置し各電極端をフラックスを以て包圍し低周波用電極に低周波電氣を通じて抵抗電氣爐を構成し電熱を發生せしめ後高周波用電極に高周波電氣を通じ其促進作用により高周波用電極を構成する各物質間に化學作用を起さしめて鐵鋼又は鐵合金を製造する電氣爐の電極を構成する資料に依り鐵又は鐵合金を製造する方法に係る。

小藤石の分離方法 (1) 第 454 號 [昭 18-2-5] (2) 昭 16-6-5. (3) 宮城精吉外一名、(4) 株式會社日立製作所 本發明は浮游選礦法に依り小藤石と其の母岩たる炭酸鹽類物を分離するに當り浮游選礦試薬として樹脂の溶液を使用して上記炭酸鹽類物を浮游せしめ小藤石を沈降せしむることを特徴とする小藤石の分離法に係る。

コバルトを含有する砒化ニッケル鑛よりコバルトを回収する方法

(1) 第 455 號 [昭 18-2-5] (2) 昭 13-11-5. (3) 鹽見勉外二名、(4) 古河電氣工業株式會社 本發明は砒化ニッケル鑛 100 部と砒化焙燒せる砒化ニッケル鑛 50~200 部とを混合し所要量の珪酸を添加

して熔融することに依り「ニッケルスパイス」を製造する時生ずる鍍を原料としてこの鍍よりコバルトを製造する方法に係る。

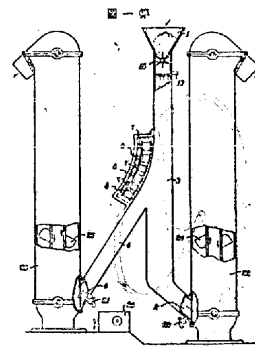
高速度鋼の切削屑を以て製せるガス盛金棒 (1) 第 456 號 [昭 18-2-5] (2) 昭 15-5-29. (3) 渡邊猪之助 (4) 南滿洲鐵道株式會社 本發明は高速度鋼切削屑 70~95%、黒鉛又は撫順油母頁岩油 コークス 0~5、硼砂 3~25、コバルト 0~20%、を配合し之を珪酸膏達 50~90% の水溶液を以て練り合せ適度の溫度を均等に保たしめたる後桿狀に壓搾乾固せしめたることを特徴するガス盛金棒に係る。

低融合金 (1) 第 457 號 [昭 18-2-5] (2) 昭 16-1-22 (3) 曾根有 (4) 陸軍大臣 本發明は Bi 36~39, Pb 28~30, Sn 11~13, Cd 3~5, Hg 15~20 よりなる低融合金に係る。

鉛合金 (1) 第 458 號 [昭 18-2-5] (2) 昭 16-7-10. (3) 吉富慶一 (4) 古河電氣工業株式會社、本發明は Co 0.01~1, Sb 0.5~7, 殘部 Pb よりなる鉛合金に係る。

變壓器用磁性合金 (1) 第 459 號 [昭 18-2-5] (2) 昭 14-11-16 (3) 仁川科存外二名 (4) 金屬材料研究所長 本發明は Mn 0.5~7, V 0.1~3.0, Cu 0.1~3.0, Cr 3.0~0, Sn 4.0~0, Si, Al 又は Ti 各 1.0~0% を含み殘部 Fe よりなる變壓器用磁性合金に係る。

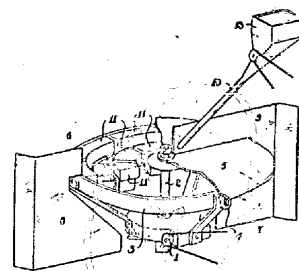
砂鐵選別装置 (1) 第 499 號 [昭 18-2-5] (2) 昭 16-12-6 (3) 藤田重明 (4) 逓信大臣 本發明は上部に原料導入口を下部に夾雜物排出口を夫々有する直立水筒の中部に之より斜下方へ分岐せる砂鐵誘導水筒を連通し砂鐵誘導水筒の上方若干範圍に於て直立水筒及砂鐵誘導水筒の側壁外面に砂鐵誘導水筒へ砂鐵を誘引すべき上下適當數の電磁石群を適當間隔に配列設置し其の上方より奇數番目の電磁石群と偶數番目の電磁石群とを交互に磁化すべくしたることを特徴とする砂鐵選別装置に係る。



特徴とす炭素電極の表面鍍金法に係る。

炭素電極の表面鍍金法 (1) 第 550 號 [昭 18-2-10] (2) 昭 16-10-25 (3) 岸本善世 (4) 松下電器産業株式會社 本發明はパラフィンを受容せしめたる炭素電極に於て鍍金を施す部分表面のパラフィンを藥品或ひは電解によりて酸化し水に可溶性の脂肪性の脂肪酸たらしめて溶解除去せしめたる後鍍金を行ふことを

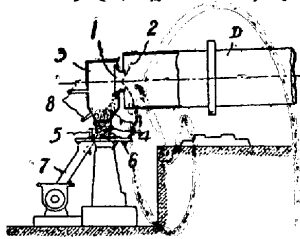
乾式砂鐵選別装置 (1) 第 600 號 [昭 18-2-10] (2) 昭 17-2-



17 (3) 藤田重明 (4) 逓信大臣 本發明は非磁性回転盤上に其の中心に接近して原料導管下端を開口せしめ該回転盤を原料導管下端下方を始端とする圓弧狀砂鐵吸引部と該圓弧狀砂鐵吸引部の終尾を始端とする圓弧狀砂鐵吸引部に分ち砂鐵吸引部に砂鐵吸引作用を現すべき磁石を配置したる乾式砂鐵選別装置に係る。

要巻撥條等の永久變形防止法 (1) 第 460 號 [昭 18-2-5] (2) 昭 15-9-11 (3) 奥田克巳 (4) 三菱重工業株式會社 本發明は使用溫度よりも稍々高き溫度に於て適當なる靜荷重を與へたる儘適當時間放置することを特徴とする要巻撥條等の永久變更を防久する方法に係る。

横置型回轉圓筒に於ける被處理物送出装置 (1) 第 655 號 [昭 18-2-15] (2) 昭 16-3-14, (3) 出田節雄 (4) 淺野セメント株式會社 本發明は横置型回轉圓筒の中心部に於ける被處理物排出口と氣密的に連通する回定流樋又は貯槽の下部取出口に接近して回轉圓盤装置を備設し流樋又は貯槽内の被處理物を常時其の取出口部に滯溜充満せしめたる状態にて圓盤上に送出することを特徴とする横置型回轉圓筒に於ける被處理物の送出装置に係る。



小藤石の分離法 (1) 第 656 號 [昭 18-2-15] (2) 昭 16-10-4 宮城精吉外三名 (4) 株式會社日立製作所 本發明は小藤石含有大理石に焼成したる後焼成物を其の自然消和又は人工的の粉砕に依りて粉末化し母岩中に於て殆ど全く原形を保つ小藤石と容易に細微なる粉末となるカルシウム及びマグネシウムの煨焼物とを篩別其の他に依りて分離することを特徴とする小藤石母岩大理石と小藤石との分離法に係る。

珪酸含有鐵鑛の低溫度製鍊法 (1) 第 658 號 [昭 18-2-15] (2) 昭 16-10-3 (3) (4) 濱野繁三外一名 本發明は珪酸含有鐵粉鐵末を鐵鑛に夾雜する珪酸 3 以上に對シアルカリ (R_2O) の割合即ち $R_2O, 3SiO_2$ 以上の高珪酸アルカリを生成せしむるに要する極く僅少の炭酸アルカリ、重炭酸アルカリの一又は二以上にて更に必要に應じて珪酸アルカリを粘結劑として少量添加したるものにて濕式處理し後圓鑛となす工程と該圓鑛を比較的の低溫度に於て焙燒し $R_2O, 3SiO_2$ 以上の高珪酸アルカリを生成せしめ珪酸鐵の生成を防止する工程と次に炭素質にて圍籠し $1000\sim 1350^\circ C$ に於て該圓鑛を還元し還元鐵の間隙より高珪酸アルカリ等を熔融流動離脱の形態となす工程と粉砕後簡單なる物理的方法により珪酸を高珪酸アルカリ等として除去する工程とを順序に結合するを特徴とする珪酸含有鐵鑛の低溫度製鍊法に係る。

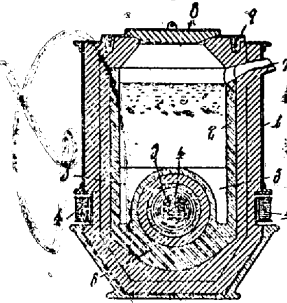
強力アルミニウム合金の處理方法の改良 (1) 第 659 號 [昭 18-2-15] (2) 昭 14-2-9 (3) 石田四郎外二名, (4) 航空研究所長 本發明は Zn 及び Mg を含有し燒入燒戻後成形加工することに依り腐蝕破壊の生ずる如きアルミニウム合金よりなり且断面縮少の加工を施されたる板棒プロフキル、線、管等を燒入れの存する状態に於て所望製品形狀に成形加工し次に之を燒戻することを特徴とする強力アルミニウム合金の處理方法に係る。

アルミニウム及アルミニウム合金鑲接用熔劑 (1) 第 660 號 [昭 18-2-15] (2) 昭 16-10-7 (3) 松下新三郎 (4) 工藝指導所長 本發明は鹽化カルシウム、鹽化加里、鹽化ナトリウム、弗化加里、鹽化カドミウム及鹽化リチウムを含有してなるアルミニウム及アルミニウム合金の鑲接用熔劑に係る。

齒科用銀又は銀合金の表面處理法の改良 (1) 第 661 號 [昭 18-2-15] (2) 昭 14-5-13 (3) (4) 池下辰次郎外一名 本發明は銀又は銀合金の表面に低溫度に於てパラヂウムを銀又は銀合金内へ隨伴滲透せしむるが如き金屬即ち Zn, Sn, Cd, の介在層を設け其上に

パラヂウム鍍層を施し之が處理によりてパラヂウムを銀又は銀合金基體表面より相當程度深部に滲透せしむることを特徴とする表面處理法の改良に係る。

輕合金熔解に適せしめたる低周波誘導電氣爐用爐槽の改良 (1)



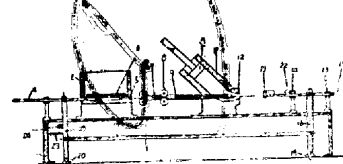
第 698 號 [昭 18-2-15] (2) 昭 16-9-16, (3) (4) 國師武雄 本發明は爐槽内壁を黒鉛質物の如き負の大なる溫度係數を有する低電氣抵抗物質を以て構成し其の底部は爐槽底部に横設したる一次線輪の周圍を包圍せしむると共に該一次線輪の兩側部に凹陥部を形成し以て爐槽内に装入したる被熔解物質と低電氣抵抗物質との直列に成る二次回路を形成せしむべ

くなしたる低周波誘導電氣爐用爐槽の改良に係る。

硅苦土ニツケル鑛處理法 (1) 第 738 號 [昭 18-2-20] (2) 昭 15-8-27 (3) 荻益太郎 (4) 日本高周波重工業株式會社 本發明は硅ニツケル鑛に該鑛の約 12% 以上の食鹽又は鹽化加里及適量の還元性炭素質を混和し密閉爐中に於て加熱しつつ鹽素ガスを導入シツケル鐵等を鹽化物として昇華分離すると共に Mg, Ca の鹽化物を前記食鹽又は鹽化加里と共に無水鹽化共融物として熔融せしめ硅石質より分離せしむることを特徴とする硅苦土ニツケル鑛處理法に係る。

アルミニウム若は其合金面黑色被膜形成法 (1) 第 740 號 [昭 18-2-20] (2) 昭 14-6-17 (3) 菅原善治 (4) アルマイト工業株式會社 本發明はアルミニウム又は其の合金の表面を清淨したる後硫酸青酸アルカリ若しくは硫酸アモニウム、硫酸ニッケル、硫酸亜鉛の水溶液の加温せるものに浸漬し黑色被膜を形成したる後過熱蒸氣を以て加壓加熱するアルミニウム又は其合金面に黑色被膜を形成する方法に係る。

熔接棒塗裝機に於ける芯線給送装置 (1) 第 917 號 [昭 18-3-5] (2) 昭 17-6-22 (3) 天野景周 (4) 株式會社神戸製鋼所 本發明は加壓下に被覆劑を收容せる塗裝器中に芯線を供給して機械的塗裝を行はしむべくなしたる熔接棒被覆劑塗裝機に於て所要寸度に截斷せる芯線を配列して順次押出し得べくなしたる供給装置と間歇的に押出さる。芯線を連續的に塗裝管中に供給すべく送出速度を異にせる複數の送出器を有する誘導裝置を備へ且塗裝を終へたる。熔接棒の送出せらるる運動を前記供給装置に於ける押出しに利用し得べき連杆裝置を併設したる熔接棒塗裝機に於ける芯線給送装置に係る。

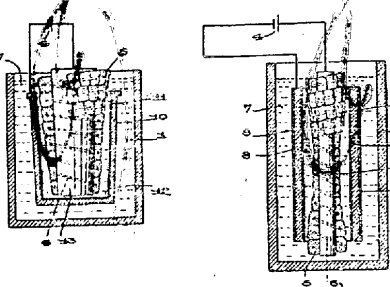


鑄鋼品の硬質クロム電氣鍍金方法 (1) 第 939 號 [昭 18-3-5] (2) 昭 15-8-30 (3) (4) 鎌田靜濤 本發明は巢窩を有する鑄鋼品に硬質クロム鍍金をなすに當り Sb 鹽化物に硫酸を混和したる熱溶液中に於て浸漬處理をなし鑄鋼製品の表面に Sb 金屬を沈積鍍着せしめこの被覆 Sb 金屬面を磨擦清淨なしたる後公知の方法によりクロム鍍金を行ふ方法に係る。

アルミニウムの銅鍍金液 (1) 第 940 號 [昭 18-3-5] (2) 昭 16-12-2 (3) 村上透 (4) 東京芝浦電氣株式會社 本發明は銅鹽に醋酸又は醋酸鹽並にアモニア水を添加し該混合液の P.H 價を 2 乃至 5 に保持して成るアルミニウムの銅鍍金液に係る。

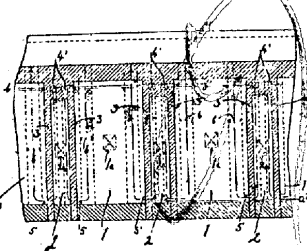
圓筒内面又は凹面部の硬質クロム電気鍍金法 (1) 第 938 號 [昭 18-3-5] (2) 昭 15-3-30 (3)(4) 鎌田照雄外三名

本發明は被電體の圓筒内面又は凹面部に相應して陽極の周圍を海綿により被覆し該海綿を必要に應じ截片とし且其厚味を種々に變化して線條に串通せしめ被電體面各部の電流密度を適正にすることを特徴とする圓筒内面又は凹面部の硬質クロム電気鍍金方法に係る。



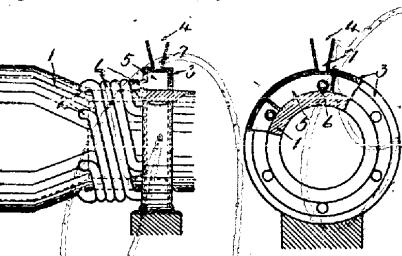
海綿鐵製造装置 (1) 第 1029 號 [昭 18-3-10] (2) 昭 15-12-21 (3)(4) 和田吉彦, 橋詰依藏

本發明は等間隔に一列に配置せる數基のコークス製造用乾溜窯の相隣れる側壁間に形成せる各還元室に材料投入口, 排氣孔, 掻き出し口, 及取り出し口を夫々設け還元作用中は此等の口を密閉すべくし各窯より發生せる廢ガスをして其の左右上隅の通氣孔より側壁内に設けたる縦氣道を下降し窯内床下中の水平氣道を前方に進み更に出口を經て同床中に設けたる他の水平氣道を後方に折返し共通運道に排出せしむべく構成せる海綿鐵製造装置に係る。



管狀回轉爐に於ける中途裝入装置 (1) 第 1030 號 [昭 18-3-10] (2) 昭 16-8-28 (3) 中島 航一 (4) 日本特殊鋼管株式會社

本發明は中繼漏斗を回轉爐に定着し其の脚部を細長となして爐體外周に數回捲付し其の脚端を爐内に開口せしめ其の呑口端を供給口を有する固定の環狀蓋體の内面に摺動自在に接觸せしめ爐の回轉中呑口端を斷續的に開閉せしめ脚部内の裝入物を呑口端の密閉期間中に於て爐内に裝入せしむる如くなしたることを特徴とする管狀回轉爐に於ける中途裝入装置に係る。



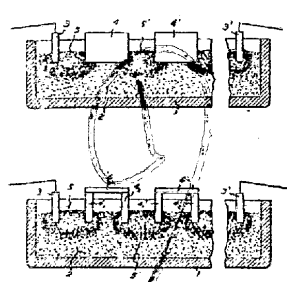
珪素鐵利用方法 (1) 第 1031 號 [昭 18-3-10] (2) 昭 16-7-24 (3) 松浦和雄外二名 (4) 滿洲輕金屬製造株式會社

本發明は硫化鉛と珪素鐵とを混合し之を非酸化性ガス中にて加熱反應せしめ珪素を含む硫化鐵と粗鉛とを生成分離する第一工程と分離せる含珪素硫化鐵に適量アルミニウムを加へ加熱反應せしめ硫化鐵中の硫黃を硫化アルミニウムとし一方所期の組成を有す Fe-Si-Al 合金を得る第二工程とを結合せる珪素鐵利用方法に係る。

粒銑鐵の脫炭並に粉鐵鍍の處理法 (1) 第 1032 號 [昭 18-3-10] (2) 昭 16-9-19 (3) (4) 綿織清治外二名

本發明は粉鐵鍍に粒狀化せる銑鐵を加へ加熱し銑鐵を脫炭し製鋼原料として好適ならしめ同時に粉鐵鍍を銑鐵中の炭素により部分的に還元せしめたる低品位の海綿鐵は其可塑性を利用し壓搾凝固せしめ熔鑪爐又は電氣爐内に裝填し製銑用を使用する事を特徴とする粒銑鐵の脫炭並に粉鐵鍍處理法に係る。

粉鐵還元方法 (1) 第 1033 號 [昭 18-3-10] (2) 昭 16-12-22



(3) 圖所忠則 (4) 日本高周波重工業株式會社 本發明は粉鐵と還元劑等との混合劑に電流を通じ還元するに當り電極間に適宜間隔を置いて複數個の固體導體を配設し前記導體と混合劑とに交互に且直列に電流を通すべくし還元せられたる金屬が互に連結せざる如く不連続的に粉鐵を還元する事を特徴とする粉鐵還元方法に係る。

アルミニウムにモリブデンを合金せしむる方法 (1) 第 1034 號 [昭 18-3-10] (2) 昭 15-9-16 (3)(4) 久留島政治

本發明は黒鉛坩堝中に熔解し 800~1000°C に保ちたるアルミニウム中に酸化モリブデンを少量宛加へ熔湯と其の上に浮べる熔融酸化モリブデンとの接觸面に於て坩堝壁を炭素棒にて摩擦することにより該部分に在る酸化モリブデンとアルミニウムとの反應を接觸的に勵起するを特徴とするアルミニウムにモリブデンを合金せしむる法に係る。

冷間加工性大なる強カマグネシウム合金 (1) 第 1035 號 [昭 18-3-10] (2) 昭 15-10-2 (3) 三浦三索外一名 (4) 株式會社神戸製鋼所

本發明は Al 1.0~4.0, Ag 0.1~2.0, Fe 0.05~0.2, Mn 0.1~1.5, Ca 0.2 以下殘餘 Mg を含有する冷間加工性大なる強カマグネシウム合金に係る。

銀カルシウム鉛合金 (1) 第 1036 號 [昭 18-3-10] (2) 昭 16-9-20 (3) 窪川眞男 (4) 日本電池株式會社

本發明は Ag 0.005~0.20, Ca 0.05~0.15, 殘餘 Pb よりなる鉛合金に係る。

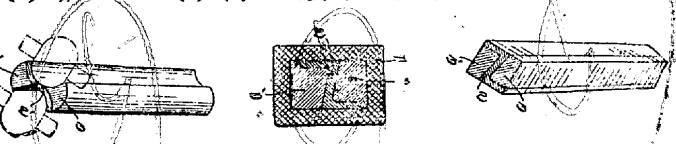
光輝燒鈍用ガスの製造方法 (1) 第 1037 號 [昭 18-3-10] (2) 昭 15-6-6 (3) 呂璞石外一名 (4) 高砂鐵工株式會社

本發明は空氣をして木炭或はコークス等の固形炭素に接觸せしめ或は其の中を通過せしめ燃焼によりて得らるる燃焼生成ガスをして高温の鑄鐵層層を通過せしめむることを特徴とする光輝燒鈍用ガスの製造方法に係る。

ピストンリング製造法 (1) 第 1040 號 [昭 18-3-10] (2) 昭 16-3-17 (3) 久保田國衛 (4) 東京均壓ピストンリング株式會社

本發明は先づリング母體の外徑をシリンダー内徑と等しく削成し次にリング母體のノットラ線の上に細孔を穿ち之を通して切斷し切線方向の力により之を開き兩端が前述細孔にのみ接觸する隔片を以て開きを支持しつつ熱處理を施すピストンリング製造法に係る。

高速度鋼ツイスト, ドリル製造法 (1) 第 1041 號 [昭 18-3-10] (2) 昭 16-4-26 (3) (4) 上島慶篤



本發明は適當に屈曲せる高速度鋼の扁平條の兩側を炭素鋼にて抱合挾持し且高速度鋼條片が一侧上半部と他側下半部とに於て露出する如く鑄込により附着せしめ更にロールにより延伸し斷面分銅形を呈し高速度鋼片の斷面を蝸輪形たらしむべく軋展して高速度鋼をして分銅形内面の右側面と左側面とを通して露出せしめ之を加熱しつつ捻曲し高速度鋼より成る刃先を形成せしめ柄部を取付け焼入及焼戻を施すことを特徴とする高速度鋼ツイストドリル製造法に係る。

鐵又は鋼に塗料下地に適せる被覆層を生ぜしむる方法 (1) 第 1042 號 [昭 18-3-10] (2) 昭 12-6-25 (3) 山本洋一外一名 (4) 財團法人理化學研究所

本發明は Zn 又は Cd の珪弗科水素酸鹽の

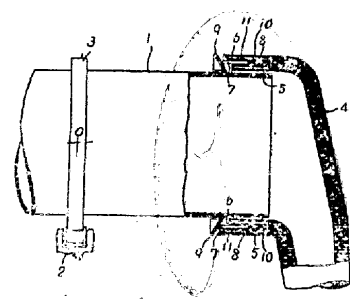
水溶液に磷酸イオン又は砒酸イオンを共存せしめたるものの中に処理すべき金屑を浸漬して加熱することを特徴とする鐵又は銅に塗料下地に適せる被覆層を生成せしむる方法に係る。

アルミウム電解槽の改良 (1) 第 1138 號 [昭 18-3-15] (2) 昭 16-9-5 (3) 村上明 (4) 日本曹達株式会社 本發明は Al 電解槽に用ふる陽極カーボンの上面に Al 或は其の他の金屬より成る廣大なる表面積を有する放熱體を裝着したることを特徴とする Al 電解槽に係る。

アルミニウム又は其の合金への電鍍豫備處理方法 (1) 第 1139 號 [昭 18-3-15] (2) 昭 15-3-23 (3) 鎌田照雄 (4) 岩井義雄 本發明は Al 又は其合金より成る被電鍍體を周知の方法により油脂其の他の垢を除去し次に鹽酸、ピロ磷酸曹達、鹽素酸カルシウム、デキストリン及び次硝酸砒鉛、又は醋酸鉛、又は第一鹽化錫を含む處理溶液を使用し該處理溶液中に被電鍍體と炭素棒とを浸漬し前者を陽極とし後者を陰極として通電し暫時放置する電鍍豫備處理方法に於て被電鍍體陽極及炭素棒陰極間に電流を通ずる以前に少量の硫酸銅を混和せる硫酸を添加して電流を通じ之を一日遮断して暫時放置することを特徴とするアルミニウム又は其の合金への電鍍豫備處理方法に係る。

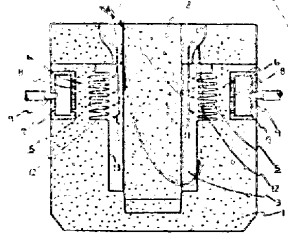
亜鉛電鍍法 (1) 第 1140 號 [昭 18-3-15] (2) 昭 17-5-20 (3) 岡田静雄外一名 (4) 日本タイプライター株式会社 本發明はアルカリ性亜鉛鍍金液に錫酸ソーダの如きアルカリに容易に溶解する錫の鹽類を亜鉛分に比し極めて微量に添加し 鍍金する事の特徴とする亜鉛電鍍法に係る。

迴轉爐の開口端部の氣密接續装置 (1) 第 1143 號 [昭 18-3-15] (2) 昭 16-2-22 (3) (4) 長谷川八重作 本發明は迴轉爐の開口端部に覆筒若くは固定接續管の開口を適宜の間隙を存して遊嵌し其の端面に鈎狀の溝を形成しスプリング等を介して壓接環を嵌合し其の突出周端縁を迴轉爐の開口端部に近く外側面に設けたるフレンヂの外側面に壓接すべくなくと共に該フレンヂの壓接環との接觸面をフレンヂに最も近きタイヤの中心點を中心とする球面に合致する如く形成せる迴轉爐の開口端の氣密接續装置に係る。



本發明は迴轉爐の開口端部に覆筒若くは固定接續管の開口を適宜の間隙を存して遊嵌し其の端面に鈎狀の溝を形成しスプリング等を介して壓接環を嵌合し其の突出周端縁を迴轉爐の開口端部に近く外側面に設けたるフレンヂの外側面に壓接すべくなくと共に該フレンヂの壓接環との接觸面をフレンヂに最も近きタイヤの中心點を中心とする球面に合致する如く形成せる迴轉爐の開口端の氣密接續装置に係る。

焼入鋼に腐蝕着色痕を顯出する方法 (1) 第 1144 號 [昭 18-3-15] (2) 昭 16-4-15 (3) (4) 河村文一 本發明は硫酸銅、鹽化砒鉛又は硝酸砒鉛、亞セレン酸を鹽酸に混溶し尙必要に應じ硝酸を添加せる液にて焼入鋼製品に文字、目盛線、其他適宜の記號を描き常溫に於て腐蝕し腐蝕痕を眞黒色に着色せしむることを特徴とする方法に係る。

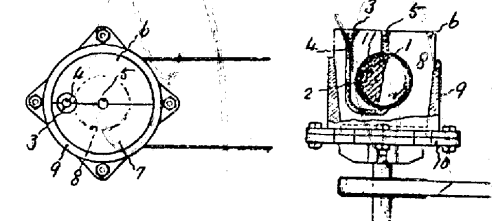


流を生ぜしめつつ注湯する真空鑄造法に係る。

真空鑄造法の改良 (1) 第 1221 號 [昭 18-3-20] (2) 昭 17-8-29, (3) 河口虎夫 (4) 三菱重工業株式会社 本發明は砂型内の薄肉突片形成部の外部より砂層を通して砂型内部の空氣を局部的に吸引し砂型内空洞部に特に薄肉突片形成部に向ふ氣

浮游選鑄用起泡助劑の製造方法 (1) 第 1241 號 [昭 18-3-20] (2) 昭 17-4-2 (3) 唐島讓外二名 (4) 三菱鑛業株式会社 本發明は針葉樹、闊葉樹の枝葉又は材を直接又は適宜の方法を以て精油を採取したる後の殘渣を稀薄アルカリ水溶液の適量を以て加熱又は加熱する事無く浸出する起泡劑の製造方法に係る。

粉砕用鐵球の製造法 (1) 第 1315 號 [昭 18-3-25] (2) 昭 16-7-14 (3) 平山



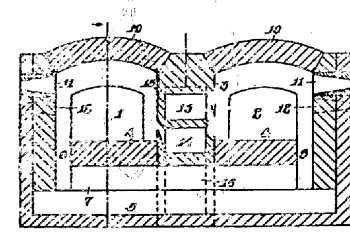
敢 (4) 關東製鋼株式会社 本發明は鐵の細片又は粉末を適當の粘結劑例へばセメント又は澱粉等を混合して加壓凝固し芯體を形成し之を球狀の金型内に裝置したる上熔融合金鋼を注入し芯體の周圍に該熔鋼を圍繞せしめて金型を高速に迴轉しつつ熔鋼を冷却凝固せしめ後之を取り出し整形燒灰等の處理を行ひ芯體の全表面で適當の厚き鋼膜を被着せる粉砕用鐵球の製造法に係る。

粉砕用鐵球の製造法に係る。

輕合金ガス熔接用媒劑 (1) 第 1343 號 [昭 18-3-25] (2) 昭 16-9-3 (3) 栗野英二 (4) 財團法人東電記念科學技術研究所 本發明は鹽素酸加里 20~40, 食鹽 20~30, 鹽化リチウム 10~20, 弗化ナトリウム 10~20, 重硫酸加里 5~10, とを混和せる輕合金ガス熔接用媒劑に係る。

アルミニウム接合用反應劑 (1) 第 1344 號 [昭 18-3-25] (2) 昭 16-9-3 (3) 栗野英二 (4) 財團法人東電記念社學技術研究所 本發明は鹽化亞鉛 75~90 鹽化アモニウム 10~20, 弗化ナトリウム 2~10, 食鹽 2~10, 鹽素酸加里 5~10% とよりなるアルミニウム接合用反應劑に係る。

双室加熱爐 (1) 第 1345 號 [昭 18-3-25] (2) 昭 15-4-22(3)



(4) 古屋野佐一 本發明は双室爐に共通なる中間爐床を設け之と爐底との間に火焰の通路を形成し且中間爐床の兩端に加熱室に前記通路との連絡路を形成せしめ火焰がS字形通路を通じ一方の爐に於て被加熱材を加熱したる後他の爐に於て被加熱材を豫熱すべくしたる双室加熱爐に係る。

一方の爐に於て被加熱材を加熱したる後他の爐に於て被加熱材を豫熱すべくしたる双室加熱爐に係る。

アルミニウム其他の輕金屬精鍊爐内張用炭素材の製造法 (1) 第 1400 號 [昭 18-3-25] (2) 昭 16-3-6 (3) 土屋弘 (4) 日本アルミニウム株式会社 本發明はコークス、レトルトカーボン、無煙炭或は黒鉛等の如き炭素質原料の單味或は混合とタール、ピッチ等の結合劑とを混捏し成形燒成等の工程を経て炭素材を製造するに當り灰分を 5% 以上含有せしめ燒成溫度を 1550~2000°C 迄となし炭素中に炭化珪素をスピネル狀に形成せしむると同時に凝固せしむることを特徴とするアルミニウム其他の輕金屬精鍊爐内張用炭素材の製造方法に係る。

ボールミル用鋼球の製造法 (1) 第 1415 號 [昭 13-3-30] (2) 昭 17-9-3 (3) (4) 齋田武三郎外一名 本發明は重晶石粉末を他物質にて膠結乃至熔結したる球塊に支持針を植設し鑄型型の中心に該球塊を支持したる状態に於て鑄鐵熔融物を流入することを特徴とするボールミル用鋼球の製造法に係る。(698 頁へつづく)